

華麗なる身体芸術に挑戦

舞踊コース

コンテンポラリーダンス

目的

- ・既成概念にとらわれない新たな表現、発想を身につける。

効果

- ・自由で豊かな発想を持ち、創作活動に活かす。

到達点

- ・それぞれの身体の個性を知り、そこから広がる表現を知る。



講師 阿比留 修一
あびる しゅういち



事前学習

コンテンポラリーダンスの公演をDVDで鑑賞する。

ワークショップの流れ (2日間く2コマ/日)

コンテンポラリーダンスについての説明と、全身のストレッチ演習



速度・範囲・動線を変えたり、ストップモーションを交えたりして自由に歩行演習



与えられたテーマを表現して歩行し、他の生徒の真似をして歩行演習



ペアで鏡像の動きをしたり、目を閉じて相手を感知しながら誘導する



体の色々な部位を接点にしてコミュニケーションをとる



事後学習

体を使ったコミュニケーションからダンスへと発展させる。

略歴

振付家・ダンサー

「即興王」「ダンスの職人」などの異名をもつ、関西を代表する男性舞踊手。97年、ダンスカンパニー「セレノグラフィカ」を代表・隅地菜歩と結成、06年以降、ヨーロッパ・韓国・ポーランド・オーストラリアツアーに参加。京都コンテンポラリーダンス研究所、子どものためのダンスグループ「チビノグラフィカ」設立。平成8年度大阪府芸術劇場奨励新人に認定。(財)地域創造「全国公共ホール現代ダンス活性化事業」平成19・20年度ならびに21・22年度登録アーティスト。

advice points

- 会場は、板面の場所を準備する。
- コンテンポラリーダンスについて、DVDなどで事前に調べておくことが望ましい。

…ワークショップを実施して…

講師の感想

高校時代は多感であると同時に、大人の価値意識・美意識のできる時期でもある。コンテンポラリーダンスという新たなジャンルの身体芸術に、戸惑いと興味が交錯しながらも、懸命に挑戦できたことが何よりの成果であり、生徒たちは新たな価値観に気づいてくれたのではないかなと思う。

先生の感想

コンテンポラリーダンスは新しいジャンルなので、1つの作品として形になることを期待し、内容は講師に一任した。講師の雰囲気づくりが良く、生徒たちは和やかに、楽しく、がんばって受講していた。今後、さらに高度なことに挑戦できればと思う。

生徒の感想

- ・体を動かすことが大好きなので、ストレッチに時間をかけたり、音楽に合わせて動かしたりするのは、難しかったが楽しかった。
- ・「自分」を表現するのは楽しく、なかなか上手くできたという気がした。

より発展的なワークショップを実施するために

- 受講内容を応用して、どんな身体的コミュニケーションができるかを試してみる。
- 音楽や絵画を題材にして、創作ダンスを踊ってみる。